

岳連
ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟
〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成30年9月3日発行
第26号



静岡少女片木選手

初日のリード競技は少年男子からスタート。静岡の片桐は核心部分でフォール。パートナーの赤池は国体初出場ということもあり、緊張のせいにか下部から硬い動きでスタート。先に競技を終えた片桐のアドバイスもあったが、下部の消耗が激しく核心部分に到達する前にフォール

翌日のボルダリング競技。少年男子は片桐が健闘するも岐阜県と1完登

度であげたも完登できず。田嶋は静岡の両名よりも手前でスリップ落ちしてしまい、静岡は順位点で三重と並ぶも、義村が1位であったためリード競技は2位で初日は終了しました。



静岡成女中村選手

度であげたも完登できず。田嶋は静岡の両名よりも手前でスリップ落ちしてしまい、静岡は順位点で三重と並ぶも、義村が1位であったためリード競技は2位で初日は終了しました。

1 リーダーの法的責任

6月9日、静岡市中央体育館大会議室において、ハイキング・縦走リーダー養成講習会が指導委員会、遭対委員会の担当で開催され、講師3名受講者15名の18名が参加した。



静岡県選手団

6ツエルトの使用法など。受講者は、リーダーとしての素養を身に付けようと真剣な表情で講義に聞き入っていた。

2 リーダーと同行者との役割の違い
3 山の安全登山の基本技術(結束法・簡易ハーネス作り・悪場の通過・確保と自力登りと下降)
4 補助ロープ使用の安全性向上技術
5 搬出法(ヒーマン搬出・ザックの使用・雨具の使用)

成女僅差の準優勝

東海ブロック大会岐阜で開催

数差で3位。少年女子は片木が3完登するも、今年からボルダリングW杯にも出場している愛知の倉が4完登をみせ、静岡は3位。成年女子の静岡チームは競技順最後に登場。成年女子の本大会出場が東海ブロック1枠のため、前日のリード競技の結果を踏まえると個人順位1位、2位が必須という厳しい条件。前半となる1基目に北脇が最も難しい課題を成年女子で唯一完登。2基目で北脇は2課題とも1トライ目で成功し成年女子では唯一の全完登。パートナーである中村は北脇からのアドバイスもあり、最終スラブ課題で少しずつ高度を上げていくもゴール

で静岡がボルダリング1位になるも、総合成績で2位という結果でした。ブロック大会においても、Wカップで活躍する選手が出場することもあり、競技レベルの高い大会だったと感じました。しかしどの県も圧倒的な実力差はさほどなく、長い目で見た選手の育成が、今後の我が県における課題にも感じました。(少年男子監督 伊藤裕貴)

6月常任理事会
日時 平成30年6月11日(月) 18時30分〜20時30分
場所 静岡労政会館 5F 会議室
出席者 滝田博之、清水雄三、前川朝夫、木ノ内高嘉、出利葉義次、諸戸明、堀内 修、工藤誠志、増田浩二、市川隆夫、鈴木 修、兼子 猛、内海廣治、加藤敏美、鈴木和也、赤堀 正、坂田昇(文責) 計(17名)
欠席 豊田 稔、高橋弘、伊藤正道、鈴木重幸会長挨拶

①平成30年度の新メンバーのスタートです、事業の推進を宜しくおねがいします。
②今年度の活動は若い人・女性など取り込みを行うよう取組を願います。(各委員会とも)
③登山教室では、70歳以上の人の健康チェック、参加者の資格の有無など明確にして活動を願う。1各委員会の報告事項

・指導者制度と競技別指導者資格の資格区分改定
・「スタートコーチ」
・「コーチI」(指導者)
・「コーチII」(上級指導員)
・「コーチIII」
・「コーチIV」
・市、県、全国、国際レベルの指導と資格
・指導者制度の検討基準変更
(指導者) 集合講習時間26時間に、(上級指導員) 集合講習時間20時間となる。
・「夏山リーダー」資格
国際山岳連盟の指導制度に準拠(認定される方向)、「スタートコーチ」として。
・「夏山リーダー講習会」講師研修会(18/19 神奈川県登山センター) 1名は受講を。
・国体監督は「スポーツ・クライミング指導員」のみに、21年栃木から適用検討。
②「ハイキング縦走リーダー養成講習会」6月9日(土) 参加者15名、指導員3名
・講習内容、リーダーの法的責任、指導法の講習(悪場通過・岩場の下降)

・座学と実習の4回で実施、日程は6月20日と7月11日座学、7月8日安倍奥で実習、7月21日(22日)本番甲斐駒、仙丈
①国体委員会(諸戸)
②東海ブロック大会(7月14日〜15日の2日間、参加者は監督含め12名。
③30年度度しずおかスポーツフェスティバル(内海)
④募集要項概要
日時 10月27日〜28日の2日間、Aコース1泊2日、Bコース1泊2日、高丸山。30名、京丸山。Cコース日帰り、一般高校生で30名、秋葉山。
・参加費はA Bとも2千円、Cは1千円、募集期間は9月10日〜10月11日。
・1泊2日コースの希望者は、藤原家へ宿泊が出来ます。問い合わせが多くなるので。
④一般連絡事項
①平成30年度岳連カレンダー(滝田)
販売部数280部の予定(加盟団体の減少の為)、販売価格は千5百円。
②個人会員募集(滝田)募集のパンフレットの配布にご協力願います、現在の個人会員数12名。
③スポーツフェスティ

バル(滝田)
「山の日」の記念行事「ふるさとの山を登ろう」を兼ねて実施。
④山の日の行事(滝田)4団体で「写真展」の実施、11月6日〜11日の6日、静岡市民ギャラリー第2展示室。
⑤山岳遭難対策シンポジウム(滝田)
山梨岳連創立70周年記念事業 7月8日 山梨県文化館で実施。
⑥県岳連ホームページ(木ノ内)
静鉄ジャストラインとのリンクを付ける。
⑦国体派遣チームについて(木ノ内)
派遣チームにトレーナーを付ける。昨年のトレーナーを東海大会からの派遣を承認する。
⑧東海4県正副理事長会議(木ノ内)
7月14日岐阜県で実施、東海ブロック大会に合わせ開催。
⑨県岳連70周年関連報告(木ノ内)
講演会、記念誌、祝賀会の会計報告など。(坂田 昇)

年間計画の諸事業が順調にスタートし、実施報告が次々と入ってきている。
岳連の事業がスムーズに展開できるのは、各専門委員会のスタッフの皆さんが寸暇を割いて企画し、実施していただいているお陰と、その尽力に感謝したい。
ただ岳連の将来を見据えたとき、これらの業務や役割を次の人に受け渡し、繋いでいくことができるだろうかという不安の思いがよぎる。企画の立案者や講習会の講師がいつも同じ人ではいつかは破綻してしまう。次世代を担う若い人が出てこない、一事業だけではなく組織全体の維持も困難となるであろう。
会員の高齢化と団体離れの傾向から所属団体数の減少に歯止めがかけられない中、難しいことではあるが、若い意欲のある人を発掘し、次に引き渡す方策を考えていくことが必要である。(TK)

編集後記

大展望の甲斐駒ヶ岳に感動

「甲斐駒ヶ岳・仙丈岳に登ろう」夏山登山教室

指導委員会主催の「夏山登山教室」も今年で第6回目となった。第5回目まではメインの山は北アルプスだったが、今年には南アルプスの甲斐駒・仙丈ヶ岳を目指す企画にした。

北沢峠からのピストンが人気となったのか、予定定員の15名を超えて18名の生徒さんが集まった。第1回座学で「夏山の登山装備」と「読図の基本」を学んだ後に、第1回実技講座は7月8日に「山伏」で行った。折からの大雨で西日影沢は凄い水量となっていたがベテランの講師の協力で生



仙丈ヶ岳山頂



甲斐駒ヶ岳山頂

第2回座学では「夏山の気象」と「歩行技術と安全」を学んだ。特に難波先生の気象講座は、興味深い内容だったと好評だった。

本番の夏山は7月20日の金曜日に前夜発して、途中の道の駅にて仮眠した。折からの酷暑で仮眠したアスファルトが熱せられ寝苦しい生徒さんも居たようで「床暖房付きのテント」という迷言が

生まれた。

21日は仙流荘よりバスに乗って北沢峠の手前の「大平山荘」に到着。ここからは余分な荷物を小屋に置いて、藪沢コースにて仙丈ヶ岳を目指した。途中遅れた生徒さんもベテラン講師の激励で無事山頂に到着。参加者全員で記念撮影をした。



甲斐駒ヶ岳山頂直下

翌22日は双子山経由で甲斐駒ヶ岳を目指した。非常に暑い日で、やや体力的に大変な登山となったが好天に恵まれ最高の眺望を愛でながらの山旅となった。360度の大展望の甲斐駒の山頂でゆっくりと贅沢な時間を過ごした。下山はやや大変な生徒さんも居たようだが、最終的には無事全員バスにも間に合い、リーダー

参加者の独り言

杉山 敏

眼前に広がる白き山肌、我々の行く手に立ちほだかる巨岩。お花畑と雷鳥家族が優しく迎えてくれた昨日の仙丈ヶ岳と違い、猛々しい甲斐駒ヶ岳の山容だ。

私が連盟の夏秋山教室に参加させて貰って今回で六度目。講師の鈴木さんは問う。「杉山さん、何で参加するの?」「自分達の登り方を確認するため」私は応える。「それじゃあ毎年同じ講義できかないな」「いやいやそんな事無いです、必要ですから!」心の声。

この教室で山好きな人達と知り合い、講師の方々とも軽口が利けるようになった。またみんなと山

歩きが：秋山教室が待ち遠しい。

それにしても暑い。甲斐駒を背に講師の田中さんが待つ仙水小屋の湧水に生き返った。

一度で二度美味しい山旅だった。

追伸、小田先生のご冥福をお祈りします。

東海ブロック正副会長理事長会議

4県の直面する課題を話し合い解決策を探る

7月14日、東海4県正副会長理事長会議が岐阜県の担当で関市の関観光ホテルでブロック大会の期間中に合わせて開催し15名が参加した。

各岳連とも、県内の山岳・登山を統括する団体として、加盟団体の取り組み及び登山環境整備・発展に尽力する中、検討を要する共通の課題を出し合い、その解決策を探ろうと話し合った。

特に、2020東京五輪を控え、優秀選手の発掘、強化が叫ばれる中で、若年層の選手発掘には、ジムの協力が不可欠であるが我々にはチャンネルが少なく困難な状況になっている。そこで、日山協対シクライミングジムと岳連が連携できるような方策を検討するよう提言することとした。

この他、所属団体数の減少、会員の高齢化、クライミング指導者の不足、指導員の高齢化(いつも同じ人が講師をやっている)など従来から言われている課題が出たほか、4県の実際に現役で動いている人達の交流の機会を作ったらどうかとの意見も出た。

(木ノ内高嘉)

第62回全国高校総体

藤枝東女子健闘4位入賞、富士男子は悔しい20位!

全国高等学校総合体育大会登山大会が8月3日〜8月6日に三重県で鈴鹿山脈を会場として行われた。静岡県からは、男子・富士高校、女子・藤枝東高校が出場した。昨年と男女の出場校が入れ替わったが、男女ともに初めての全国総体であった。

27年度の岡山大会、28年度の滋賀大会では、熱中症により多くの選手が治療を受け、ヘリコプター搬送や救急車出動などもあった。その反省から、今大会はあまりにも気温が高くなりそうときはコース短縮を行なうなど



藤枝東高チーム

して、熱中症の危険を回避することになった。結局大会期間中猛暑が続いたため、3日間ともコースが短縮されることになった。

一方、女子の藤枝東は初出場ながら4位(46チーム中)入賞を果たした。大きなミスは1つもなく、



富士高チーム

1日目は釈迦ヶ岳をカックからサブザックに変更。2日目は朝明溪谷からブナ清水までサブザックの往復のみ。3日目はサブザックで御在所岳に登り、ロープウェイで下山。当初の予定が原形をとどめないほどの大幅なコース短縮となった。全行程とも、選手が隊列で歩く形態となり、役員から目が

大会結果(6位まで入賞)		
	男子	女子
1位	修道(広島)	防府(山口)
2位	神戸(兵庫)	千葉東(千葉)
3位	前橋(群馬)	山形西(山形)
4位	千葉東(千葉)	藤枝東(静岡)
5位	下松工業(山口)	善通寺第一(香川)
6位	岩手(岩手)	高崎女子(群馬)
20位	富士(静岡)	

届きにくいチーム行動は取りやめとなった。熱中症対策としての判断なのでやむを得ないが、コースが短すぎて体力のある静岡県勢にとっては、自分たちの持ち味を發揮しづらい条件となった。

総合成績は男子の富士は20位(46チーム中)であった。富士は、装備や読図などで配点の大きなミスがあり、この時点で上位入賞は難しくなった。しかし、何よりも絶対の自信を持つ体力で、大きく減点されており、順位が大幅に下がってしまった。

平成30年度日山協遭難対策委員長会議・研修会が東京都晴海海員会館にて6月23日・24日開催されました。

今年度から総会は常任委員で行うとの事でしたので、各都道府県の遭難委員長会議・研修会として開催しました。

23日 研修会

(1)「ココヘリの現状と救助実績」

民間のヘリ運航会社6社と提携し日本国内の山域をカバー

(2)「夏山リーダーについて」説明

・「夏山リーダー」教育のいきさつと背景(その必要性)

・これまでの対応と今後

全国遭難対策委員長会議・研修会参加して

(清水雄三)

体力面で減点された理由は分からないという状況であり、静岡県の選手達は減点に納得がいかないであろう。静岡県として、どのような観点で減点されたのか、減点されていない学校との違いはどこなのかを考えていく必要がある。

(清水雄三)

青山氏 山岳遭難事故統計で、大きな成果は、「魔の11時」と「魔の14時」と呼ばれる事故多発時間帯である。14時は昼食後、最も注意力が落ちる時間帯として注意されてきた。英国ではアルパイン型登山習慣がないので、通常朝8時から10時に出発し、昼食は12時から14時にとる。約2時間遅れ気味に考えると16時がピークとなる。

警察庁事故データから事故者数は昨年減少したが、再び増加し、約20年間の右肩上がり傾向が続いている。事故者の世代構成は完全に高齢者時代に入り、75歳以上の後期高齢者も少しずつ増えはじめています。

山岳遭難事故データから新たに383人のデータが加わった。その中身は滑落、転倒が大半を占めるが、少しずつ道迷い、疲労が増加してきた。昨年より野生動物は急増しており、大半が昆虫によるものであった。

(4)各県からの事故事例報告

(堀内修)